

国際会議開催報告 ～サポート企業の視点から～

次郎丸 沢†

†株式会社カンファレンスサービス

キーワード：国際会議，開催状況，ASIACCS2022

1 はじめに

筆者は2019年から国際会議の誘致・準備・会議当日そして会議後の後処理まで、国際会議のサポートを行ってきた。現在、ほぼすべての業務が終了していることから、実行委員会およびサポート企業が何を行ってきたのかについて時系列を追ってまとめることで、今後同様の国際会議を開催する際に気を付けるべき点等について考察する

2 ACM ASIACCS

筆者が担当したASIACCS2022（以下、本会議と表記）という国際会議は、サイバーセキュリティやプライバシーに関する国際会議であり、ACMが開催母体となっている [1]。ACMにはCCSという別の国際会議があるが [2]、この会議の成功により2006年にASIACCSが設立され、アジア・オセアニア地域で年1回開催されている [3]。2021年版のサイバーセキュリティのランキングサイトでは14位にランキングされている [4]。

3 国際会議開催経緯

3.1 Proposal 作成

他地域との競争入札であるため、Proposal 資料を作成した。日本開催の優位性を、文化・経済・交通・日本側のサポートの4点を基に他地域との優位性を主張した。なお、この競争入札は2019年夏に行われたため、対面開催が前提であった。

3.2 事前計画作成

日本開催の決定と前後して、事前計画の作成を行った。特に予算や参加者の満足度に影響が大きい分野を集中的に検討した。

3.3 Web サイト作成および助成金申請

事前準備と並行して、Web サイトを作成し、各種助成金の申請を行った。

3.4 COVID-19 による開催方式の検討

2019年の冬にCOVID-19のパンデミックが報じられると、国際会議の開催方式がオンラインおよびハイブリッド形式での会議が増えてきた [5]。本会議でも会議開催手法を検討することになった。

3.5 論文募集及び参加登録

本会議では論文投稿は実行委員会がタッチせず、プログラム委員会のみで行った。一方で、参加登録は実行委員会が行った。

3.6 入国対応

入国対応時には、厚生労働省が用意した入国者健康確認システム（ERFS）を用いて証明書を出す必要があった [6]。本会議でも日本への入国を希望する参加者にはERFSの証明書を配布した。

3.7 会議当日

会議はハイブリッド形式で開催した。感染対策を万全にして開催したため、会議開催によってCOVID-19に感染したという報告は無かった。

3.8 会議終了後

会議終了後には各種会計報告を行った。

4 考察およびまとめ

考察およびまとめは発表時に行う事とする。

参照文献

- [1] ACM, “Association for Computing Machinery,” [オンライン]. Available: <https://www.acm.org/>. [アクセス日: 24 9 2022].
- [2] ACM, “CCS - Computer and Communications Security, ” [オンライン]. Available: <https://dl.acm.org/conference/ccs>. [アクセス日: 24 9 2022].
- [3] 穴. e. al, “国際会議 ASIACCS2014 報告,” コンピュータセキュリティシンポジウム 2014 論文集, 2014.
- [4] Jianying Zhou, “Top Cyber Security Conferences Ranking (2021),” [オンライン]. Available: <http://jianying.space/conference-ranking.html>. [アクセス日: 24 9 2022].
- [5] 次郎丸 沢, “国際会議の開催状況比較 : 2021 年と 2022 年を比較して,” 第 11 回 国際 ICT 利用研究学会 研究会, 2022.